

みんなにやさしい、特別支援教育 (3)

◆子どもの前では「笑顔」でいよう

まもなく教壇に立たれて、1ヶ月。H先生は、指導の先生方や学年の先生方に教えていただきながら、日々頑張っておられます。

先日、6年生の子が、「H先生の笑顔を見るとホットする。」と話していましたが、子どもたちにとって担任の先生の笑顔には安心をして元気が出るものです。

ソーシャルスキルトレーニングの一つに、「向かい合って話す」というのがあります。

相手が何を言っても無表情で感情を殺して聞いた場合と、笑顔で相づちを打って聞いた場合で、話し手の気持ちはどう変わるかを体験するものです。

やってみると、自分の話が無表情で聞かれたら、怒りの気持ちが沸いてきます。笑顔でうなずいてもらおうと、相手との心の距離がぐんと近づきます。

教師がどんな表情で、自分たちの言葉を受け止めてくれるか、そのこと一つで教室の空気が変わります。



教室の子どもたち、とりわけ、人との関わりがうまくできない子どもたちの心を開き安心できる教室にする大前提は、教師の「笑顔」ですね。

H先生の指導教官のN先生が、次のように話しておられます。「一週毎にH先生が、学級担任としてしっかり成長されていると感じます。子どもたちの前で話されるとき、キリッとしておられて堂々と

しています。話し方のスピードがちょうど良く、一つひとつの言葉もはっきりしているので聞き取りやすいです。ダメなものダメとか、今日は授業途中で一度、集中していない子の態度に対して指導をされたのですが、この時の雰囲気はビシッとしていて、学級全体が引きしまりました。笑顔のステキな先生も、こういう厳しさは必要です。とても良いです。」と。